
黒幻の陰陽師

翳鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒幻の陰陽師

【Nコード】

N2649BA

【作者名】

翳鴉

【あらすじ】

いつも教会の庭の木で寝ている少年、雛雅。いつも自由気ままにしていたが、ある日村人を襲う妖怪が現れると噂で聞いて…。

『黒幻の騎士』と繋がるストーリー。

プロローグ

「俺は……死にたくない……」

なら、お主の対価を払え。

俺は人間が大嫌いだ。
自由気ままな生き物。
それだけで腹が立つ。

「雛雅！下りないと危ないぞ！」
ひなが

「ZZZZ。」

「また寝てるのか。」

俺がもつとも好きなのは……。

”妖”だけだ。

俺と同類のような存在だから。

平鬼 雛雅
ひらき ひなが

16歳の男。

生意気で冷たくて自分勝手。

人間が大嫌いで妖を好む。

”黒幻の陰陽師”の称号を得ている。

教会で住んでいる。体が弱い。

教会の庭の木が大好き。

悪那 梗式
あくな こうしき

19歳の男。

明るくて誰にでも優しくて結構お節介で心配症。

雛雅とずっと一緒に居る。

雛雅にとって必要不可欠と言える存在？

お兄さんの存在。教会で住んでいる。

雛雅の手伝いをしている。

はまむら
浜村 美麗

16歳の女。

明るくて元気で優しくて結構強がり。

教会に住んでいる。

雛雅と梗式と一緒に居る。

妖はあまり好きではないらしい。

1話 ― 少年 ―

人間は、大嫌いだ。

「ふわぁ…あれ？雛雅は？」

「いつものところだよ。」

「分かった。」

村外れにある、教会。

数人しか住んでいない。

だけど、若い村人はちよくちよくその教会に遊びに来る。

「雛雅。」

「Zzzzzz。」

一人の少年が教会の庭の木で眠っていた。

「俺は……生きたい……。」

なら、お前の対価を払え。

パチッ

「……。」

少年が目覚めます。

「雛雅。」

「梗式…。」

「どうかしたのか？」

「知っているか？この頃の村の噂。」

「ああ、知ってる。」

「村人を襲う妖怪…妖はそんな事しない。」

「そうとは限らない。」

「！？…まあ、いいけど。俺今日一日村に居てるから。」

「なら、俺も！」

「いい。俺一人の方が目立たないし、お前が傷つく事もないだろう？」

「だけど…。」

「いいから、ここに居ろ。」

「雛雅！！！」

雛雅が村に向かった。

ガチャッ

「あれ？雛雅雅は？」

「美麗。村に行った。」

「どうして？駄目だよ！！雛雅が！」

「雛雅が来るなって言うから。」

「……。」

「はあ…。美麗行くか。」

「うん！」ニコッ

美麗と梗式が教会から、村に向かった。

タッ

「妖の匂いがする。」

雛雅が鼻で嗅ぐ。

そして、雛雅を見た村人たちはざわめき始める。

「教会の奴だ。」

「何しにきたんだ？」

「妖怪を連れてきたのはあいつじゃ無いのか？」

「何で、ここに？」

「気持ち悪い。」

「……。」

雛雅は無視していた。

そのまま、村を歩いていたら……

バンッ！！

「痛ッ！……。」

雛雅の頭に石を投げってくる幼い男の子が居た。

雛雅は頭に怪我をした。

「……はあ……。」

だから人間は嫌いだ。

自分自身と違う生き物を否定したがる。

「……居た。」

雛雅の目の前に巨大な妖怪が現れた。

「グワアアアアアアアア！！！」

「操られてるのか。」

……やめたい。傷つけない。

「そうか。それが本心か。」

助けてくれ……。

「なら、俺が助けてやるよ。」

雛雅の背中に背寄っていた日本刀を出す。

「氷華爆憐衝！！！！！！！」

「ウワアアアアアアアアアア！！！！！」

雛雅は日本刀を直した。

妖怪は正気を取り戻したが、消えかかっていた。

「ありがとうな……わしを助けてくれて……ありがとう。」

「……ごめん。今度。俺の教会に遊びに来いよ。」

「行くさ……わしの大切な命の恩人……だから……。」

妖怪は消えた。

ポタッ

雨が降ってきた。

「雛雅！」

「…そつか…楽しみにしてる。」

「雛雅！大丈夫？」

「ああ…大丈夫だ。」

「頭、怪我してるじゃない！」

美麗が頭の手当てをする。

「雨かあ、梗…。」

「なんだ？」

「俺は救えたかな？…妖を…。」

「救えたよ。だから、泣くな。」

「…泣いてない…。」

俺は、妖が好き。

妖が消えたりしたら、俺は悲しい。

知らないうちに泣いてしまう。

だけど、俺は…”黒幻の陰陽師”妖怪を斬る者。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2649ba/>

黒幻の陰陽師

2012年1月7日14時47分発行